

令和 8 年度 歴史総合＋日本史探究 (01コア・03プラス・05プラス)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題13ページです。別に、マークによる解答用紙~~マーク~~、記述による解答用紙~~記述~~各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙~~マーク~~・~~記述~~をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙~~マーク~~の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
5. 解答用紙~~マーク~~はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
6. 解答用紙~~記述~~は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
8. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
9. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号				
千位	百位	十位	一位	
0	6	3	7	
0	●	0	0	0
1	①	①	①	①
2	②	②	②	②
3	③	③	●	③
4	④	④	④	④
5	⑤	⑤	⑤	⑤
6	⑥	●	⑥	⑥
7	⑦	⑦	⑦	●
8	⑧	⑧	⑧	⑧
9	⑨	⑨	⑨	⑨

01コア・03プラス・05プラス

I

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)
(11)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(11)
(12)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(12)
(13)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(13)
(14)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(14)
(15)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(15)
(16)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(16)
(17)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(17)
(18)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(18)
(19)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(19)
(20)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(20)

II

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)

III

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	
(1)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(1)
(2)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(2)
(3)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(3)
(4)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(4)
(5)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(5)
(6)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(6)
(7)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(7)
(8)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(8)
(9)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(9)
(10)	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	(10)

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号				
	千位	百位	十位	一位
0	0	0	0	0
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9



CB01J-OMR

総 点	
--------	--

IV

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

(6)	
(7)	
(8)	
(9)	『
(10)	『

評 点	
--------	--

V

(1)	
(2)	
(3)	権
(4)	説
(5)	声明

(6)	
(7)	権
(8)	
(9)	
(10)	

評 点	
--------	--

I 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 マーク〕(20点)

人間の社会では、人々が集まってさまざまな営みを行ってきた。さまざまな集団ごとに集まる場や行事が必要であり、それは歴史的な条件の下で多様に存在した。

縄文時代の集落の中には、三内丸山遺跡のように非常に大型の(1)〔㉠ 横穴式石室 ㉡ 甕棺墓 ㉢ 竪穴式石室 ㉣ 高床倉庫 ㉤ 竪穴住居〕が見つかる場合もある。(1)の巨大なものの場合には、その中に集落の人々が集まることもあったのであろうか。

弥生時代になると、特殊な建物の見られる遺跡が目立つようになる。池上曾根遺跡では大型の高殿建物と大型の井戸が近接して発見されており、集落の人々が何らかの目的で集まる場だったのであろうか。(2)〔㉠ 大阪府 ㉡ 京都府 ㉢ 佐賀県 ㉣ 奈良県 ㉤ 福岡県〕の纏向遺跡では、祭祀などのための大型の建物があったと考えられ、人々が集まるさまざまな営みが行われたようである。

巨大な前方後円墳を造るようになった豪族たちは、根拠地としての居館を構えていた。豪族の居館の中には、居住空間となる建物以外に、広場が構えられていたようである。

中国風に宮殿建築が並んだ儀礼空間としての大規模な朝廷が整備されたのは、7世紀半ばの孝徳天皇の時代に造られた(3)〔㉠ 大津宮 ㉡ 浄御原宮 ㉢ 難波宮 ㉣ 藤原宮 ㉤ 平城宮〕からと考えられている。広大な広場空間で官人たちが整列し儀礼などが行われた可能性がある。

一方で、中央で都が整備され、地方諸国に国府が造られて、都市的な空間が誕生していくと、そこに多くの人々が集住するようになった。都には東と西の2カ所に(4)〔㉠ 市 ㉡ 苑地 ㉢ 神社 ㉣ 大路 ㉤ 官営寺院〕が設けられた。また国府にも(4)が設けられている。(4)は、物資の集散とともに人々が集まる場所として機能した。また見せしめとしての刑罰なども(4)で行われたらしい。

平安時代中期の公卿たちが、内裏に出仕した際にまず集まるのは、(5)〔㉠ 紫宸殿 ㉡ 陣 ㉢ 滝口 ㉣ 壺 ㉤ 北面〕であった。(5)は、本来は内裏警衛を担当する近衛の詰所だったが、公卿が集まって「(5) 定」という会議を開く場所と

しても使われた。

都市である平安京の人々が熱狂してブームとなる現象も、平安時代には知られている。(6)〔㉠ 嵯峨上皇 ㉡ 後白河上皇 ㉢ 後鳥羽上皇 ㉣ 白河上皇 ㉤ 鳥羽上皇〕による院政が始まって10年ほどを経た1096年6月の祇園会の頃から流行した田楽踊は、祇園会を過ぎても収束せず、貴族や上皇までもが好んで観覧し、夜を徹して京中の人々が集まり田楽踊に興じるさまは、「狂えるが如し」とまで言われた。

鎌倉幕府においても、有力者の集まりがあった。幕府成立当初は將軍の裁断が絶対的な権威を持っていたが、(7)〔㉠ 北条時宗 ㉡ 北条時政 ㉢ 北条時頼 ㉣ 北条泰時 ㉤ 北条義時〕が執権であったときに評定衆を設置し、有力御家人たちによる評定を中心に幕府政治を動かすようになった。

鎌倉時代にも(4)に庶民が集まり、そのようすは絵巻物などにも描かれている。また、(4)などを舞台に僧侶が教えを広める活動もあり、平安時代に「(4) 聖」と呼ばれた空也は人々の集まる(4)で説法を行ったし、鎌倉時代の(8)〔㉠ 一遍 ㉡ 親鸞 ㉢ 日蓮 ㉣ 忍性 ㉤ 法然〕による踊念仏なども、人々の集まる場で行われ布教されていたことが絵巻物に描かれている。

室町時代になると、度重なる戦乱から村を守るため、村人たちが自主的に集まりをもって団結するようになった。こうした集まりは「寄合」と言われ、村を単位として惣を結成し(9)〔㉠ 掟 ㉡ 式目 ㉢ 勅令 ㉣ 目安 ㉤ 律〕を定めることもあった。このように集まって一致団結した行動をとる約束をすることを一揆と呼び、一揆によって金融業者を攻撃したり、領主層や他国からの侵害に武力で対抗することもあった。(10)〔㉠ 伊勢国 ㉡ 加賀国 ㉢ 紀伊国 ㉣ 摂津国 ㉤ 三河国〕では一向宗徒の一揆が1488年に守護を倒して以後、長く一揆による実質的な支配が続いた。

戦国期、統一政権に向けた権力統合が進んでいった。統合を推し進める権力者が健在なうちはその権力の下に皆が集まるが、健在でなくなれば政権を維持するためには合議が重要になってくるだろう。豊臣秀吉が全国統一をなした後、(11)〔㉠ 石田三成 ㉡ 加藤清正 ㉢ 伊達政宗 ㉣ 北条氏政 ㉤ 毛利輝元〕らの有力大名が五大老として定められ、秀吉亡き後の豊臣政権を支えた。

江戸時代には庶民もさまざまな集まりを持ったが、同業者集団や、さまざまな学びや信仰の目的ごとに作られた、「講」という集まりがある。仏教教義講説の集まりから始まったとも考えられているが、神仏への信仰を通して集まった人々が、社寺参詣のために共同で資金を蓄え、順番に参詣するといった活動も見られるようになった。(12)〔㉠ 伊勢 ㉡ 大山 ㉢ 金比羅 ㉣ 善光寺 ㉤ 富士〕参りの流行とともに(12)講が盛んになったように、いくつもの講が各地への社寺参詣を支える組織となっていた。(12)参りは、特定の年には「御蔭参り」とも言われて例年以上に大流行することもあった。

江戸時代の集まりとしては、子どもたちが集まる寺子屋も重要である。寺子屋を通して行われた読み・書き・そろばんなどの教育は、江戸時代の人々に広く浸透し、文字による行政や経済活動を支えた。また、(13)〔㉠ 安藤昌益 ㉡ 伊藤仁斎 ㉢ 貝原益軒 ㉣ 大槻玄沢 ㉤ 山片蟠桃〕の著作をもとにした『女大学』を使った女子教育も行われた。

商業の発達とともに商業者の組合も発展した。そうした組合である株仲間は、特定の商品の流通を独占するなどし、物価騰貴の原因となっていると考えられた結果、(14)〔㉠ 正徳の治 ㉡ 享保の改革 ㉢ 寛政の改革 ㉣ 大御所政治 ㉤ 天保の改革〕では株仲間の解散が命じられた。

いっぽうで人々の連携は、物価高による経済的苦しみが社会に広がる中では、集団での示威行動へとつながっていく。江戸時代の後期には、飢饉のたびに、困窮した人々による百姓一揆や打ちこわしが大幅に増加した。(15)〔㉠ 享保年間 ㉡ 元禄年間 ㉢ 正徳年間 ㉣ 天保年間 ㉤ 天明年間〕に起きた飢饉は深刻で、甲斐国郡内地方や三河国加茂郡で1万人にも及ぶような大規模な一揆が起きている。

明治維新後も、困難に直面すると村の寄合があり、こうした人々の社会的な連携を背景にして、自由民権運動も広がっていく。政府批判運動に対抗するため、政府は1880年に(16)〔㉠ 讒謗律 ㉡ 集会条例 ㉢ 治安維持法 ㉣ 治安警察法 ㉤ 保安条例〕を公布した。

自由民権運動の成果として、国会が開設された。1890年に開かれた第1回帝国議会では、(17)〔㉠ 第1次伊藤博文内閣 ㉡ 第2次伊藤博文内閣 ㉢ 黒田清隆内閣 ㉣ 第1次松方正義内閣 ㉤ 第1次山県有朋内閣〕は超然主義の立場をと

り、衆議院で多数を占めた民党と対立した。

1905年の日露戦争終結の講和をめぐって、東京では集会に参加した人々が政府の方針を批判して暴動化し、日比谷焼打ち事件が起きた。(18)〔㉠ 長春以南の鉄道とその付属の利権 ㉡ 韓国の監督権 ㉢ 漁業権 ㉣ 租借地 ㉤ 賠償金〕がまったくとれなかったことが人々が大きな不満を持つ原因であった。

1918年には、(19)〔㉠ 関東大震災 ㉡ 三・一独立運動 ㉢ 五・四運動 ㉣ シベリア出兵 ㉤ パリ講和会議〕をきっかけとした米価の高騰が起こり、全国的な米騒動となった。政府は軍隊を動員して鎮圧に当たさせたが、寺内正毅内閣は総辞職し、各地で人々が集まって起きた暴動の影響があらためて示されることとなった。

戦後は、マスコミや全国化したさまざまな組織が発展したことによって、全国で一斉の行動を行うことも試みられた。1947年には (20)〔㉠ 原水爆禁止世界大会 ㉡ 国家公務員法改正 ㉢ 二・一ゼネラル＝ストライキ ㉣ 日本学術会議の設立 ㉤ 日本労働組合総評議会の結成〕が計画されたが、直前にGHQによる命令で中止された。

高度経済成長を経て、国内で開かれるイベントも大規模なものとなり、1964年の東京オリンピックや、1970年の大阪万国博覧会では、日本だけでなく海外からも人々が集まった。現在では、インターネット上の仮想空間に人々が集まることも可能になり、諸外国にいる人々とも同時に場を共有することができる。会議やイベントなどは今後もさらに形を変えて発展していくのだろう。

Ⅱ 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ-ク〕(20点)

学習院大学から歩いてしばらく行ったところに、徳川林政史研究所という研究機関がある(東京都豊島区目白3丁目)。尾張徳川家(以下、「尾張家」とする)第十九代当主徳川義親によって設立された徳川黎明会に属する研究所で、後述する徳川慶勝の肖像写真や、「御材木川狩之図」など林政に関するものといった多種多様の史料を有している。

いうまでもないが、尾張家はいわゆる三家のひとつで、徳川(1)〔㉠ 家康 ㉡ 秀忠 ㉢ 家光 ㉣ 家綱 ㉤ 綱吉〕の子どもである義直を初代とする。ちなみに、三家のほかの二家は、徳川頼房を初代とする水戸徳川家(以下、「水戸家」とする)、徳川頼宣を初代とする紀伊徳川家(以下、「紀伊家」とする)である。頼房の子どもである光圀は、紀伝体の歴史書(2)〔㉠ 『本朝通鑑』 ㉡ 『大日本史』 ㉢ 『政談』 ㉣ 『読史余論』 ㉤ 『群書類従』〕の編纂をはじめた(完成したのは、明治年間)。光圀は、時代劇「水戸黄門」でよく知られていよう。水戸家でいえば、徳川斉昭も幕末の政治史に関わった人物として著名である。藤田東湖は斉昭の腹心で、彼や『新論』を著した(3)〔㉠ 藤田幽谷 ㉡ 会沢安 ㉢ 平田篤胤 ㉣ 本居宣長 ㉤ 海保青陵〕らが水戸学を発展させ、幕末の思想史・政治史におおきな影響を及ぼした。なお、藤田東湖は安政の大地震で母を救出したあと、圧死したという。

紀伊家でいえば、何とんでも、徳川吉宗がもっとも著名であろう。彼は徳川家継の跡を継いで、将軍となり、享保の改革を行った。それまでの側用人による側近政治をきらい、将軍の意思がより反映された政治を実施した。享保の改革で実施された政策は多岐におよぶ。代表的なものとしては、足高の制などの人材登用政策、儉約令や新田開発、上げ米などの財政政策、公事方御定書の制定や『御触書寛保集成』の編纂などの法制度整備、町火消の組織化や火除地の整備などの都市政策が挙げられる。とくに、(4)〔㉠ 日本橋 ㉡ 堺 ㉢ 天満 ㉣ 堂島 ㉤ 神田〕の米市場を公認するなど、米価の安定に気を配ったため、「米公方」と呼ばれたが、実際に米価を安定させるのは至難の業であった。なお、吉宗が(5)〔㉠ 宗武 ㉡

重好 ㊶ 慶喜 ㊷ 綱重 ㊸ 宗尹] におこさせた一橋家からは、のちに複数名の将軍がうまれている。

さて、「尾張」家といっても、美濃や信濃などの一部も支配地であり、とくに(6) [㊶ 萩 ㊷ 浅草 ㊸ 生野 ㊹ 佐渡相川 ㊺ 木曾] の檜は、藩財政にとって、重要な産物であった。江戸時代の「村」というと、農業をおもな産業とする農村を思い浮かべる方が多いかと思う。それはそれで間違いではなく、村の中では農村がもっとも多かったのであろうが、山村や漁村なども相当数あった。林業や漁業がさかんに行われ、たとえば、ふかひれや干し鮑、いりこなどのいわゆる(7) [㊶ 俵物 ㊷ 抜け荷 ㊸ 棒手振 ㊹ 蔵物 ㊺ 金肥] は、銅にかわる輸出品として用いられた。

尾張家の幕末の当主である慶勝は、将軍徳川(8) [㊶ 家基 ㊷ 家重 ㊸ 家慶 ㊹ 家定 ㊺ 家茂] の跡をめぐるいわゆる将軍継嗣問題で、南紀派と対立したり(のち安政の大獄で処罰される)、第一次長州征討において総督を勤めたりするなど、たびたび政治の表舞台に立った。写真を好み、名古屋城内などの撮影を行ったことでも知られている。冒頭でふれた徳川義親は、幕末に(9) [㊶ 将軍後見職 ㊷ 京都守護職 ㊸ 外国奉行 ㊹ 政事総裁職 ㊺ 勘定奉行] を務めた松平慶永の子どもで、のちに尾張家に養子に入った。きょうだいには三条公美の妻となった千代子などがいる。なお、三条公美の父である実美は、「一、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」などから成る(10) [㊶ 五箇条の誓文 ㊷ 五榜の掲示 ㊸ 王政復古の号令 ㊹ 一世一元の制 ㊺ 廃刀令] を発した明治新政府の中枢にいた。

Ⅲ 次の文章を読み、〔 〕内の語句から最も適切な語句や記述を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙マ-7〕(20点)

江戸幕府は、何度も悪鑄(貨幣に含まれる金銀の量を減らし貨幣の数を増やすこと)をおこなった。たとえば、江戸幕府は、幕末期の海外貿易開始にともなう金貨の海外流出をふせぐため、(1)〔㉠ 万延小判 ㉡ 天保一分銀 ㉢ 慶長小判 ㉣ 南鐐二朱銀 ㉤ 天保小判〕を鑄造したが、物価上昇に拍車をかけた。

また、江戸幕府を倒して成立した明治新政府は、成立当初の1868年、財源に乏しかったため、(2)〔㉠ 10円銀貨 ㉡ 太政官札 ㉢ 20円金貨 ㉣ 明治通宝札 ㉤ 貿易銀〕を発行したが、増発したためその価値は下落した。

そこで明治政府は1871年に新貨条例を制定し、全国統一の新しい貨幣単位である「円」を導入した。さらに、翌1872年には国立銀行条例が公布され、国立銀行には国立銀行券を発行する権利が与えられた。国立銀行は、最終的には(3)〔㉠ 4 ㉡ 15 ㉢ 77 ㉣ 153 ㉤ 879〕行まで設立された。

しかし、不換紙幣である国立銀行券にくわえて、西南戦争の戦費をまかなうための政府紙幣が増発されたことから、激しいインフレーションが生じた。1881年に大蔵卿に就任した松方正義は、翌1882年に中央銀行として日本銀行を設立、初代総裁には同郷(薩摩)の吉原重俊をあてた。また、松方大蔵卿は、(4)〔㉠ 殖産興業のために官営工場を積極的に建設した ㉡ 貿易赤字を解消するため適切なインフレーション政策へと誘導した ㉢ 日銀設立の翌年に国立銀行から銀行券発行権を取り上げた ㉣ 不換紙幣を回収するために積極財政を行った ㉤ 貨幣と紙幣の価格差が拡大すると日本銀行には金兌換銀行券を発行させた〕。この松方財政は、1880年代後半の企業勃興の前提を準備するものであった。

さらに、日清戦争の賠償金によって金の準備不足を解消、1897年制定の(5)〔㉠ 貨幣法 ㉡ 価格等統制令 ㉢ 輸出入品等臨時措置法 ㉣ 金融緊急措置令 ㉤ 臨時資金調整法〕によって、金本位制が確立した。

この金本位制は、第一次世界大戦中の1917年に停止された。第一次世界大戦後、2度にわたって日銀総裁をつとめたのが、(6)〔㉠ 団琢磨 ㉡ 浜口雄幸 ㉢ 片岡直温 ㉣ 井上準之助 ㉤ 高橋亀吉〕である。(6)は金融システムの安定のため

め尽力した。のちに(6)は、立憲民政党内閣の蔵相として金輸出解禁(金解禁)を実施することになる。

1920年代は恐慌が相次ぐが、日銀は恐慌にともなう混乱の收拾にあたった。1923年の関東大震災の際には、緊急勅令として日本銀行震災手形割引損失補償令が公布され、補償限度1億円まで日銀が震災手形の再割引に応じることが可能となった。

しかし、震災手形の処理をめぐって1927年に金融恐慌が発生するなか、台湾銀行救済のための特別融資をはかる緊急勅令案を(7)〔㉠ 衆議院 ㉡ 元老院 ㉢ 貴族院 ㉣ 軍部 ㉤ 枢密院〕が否決したことから、当時の内閣は倒壊した。

さらに、1930年には昭和恐慌が発生、正貨が大量に海外へ流出した。そのため、1931年12月に成立した立憲政友会内閣の蔵相に就任した高橋是清は、ただちに金輸出再禁止を断行、ついで円の金兌換を停止したので、日本は事実上の管理通貨制度へ移行した。この高橋財政によって、(8)〔㉠ 日本が世界恐慌以前の生産水準を回復するのは日中戦争になってからであった ㉡ 絹織物業などの諸産業は大幅な円高を利用して輸出をのばした ㉢ 既成財閥のほかに日産・日窒などの新興財閥が台頭した ㉣ 政府は時局匡救事業と称して企業の国営化をすすめた ㉤ 八幡製鉄と富士製鉄が合併して新日本製鉄が誕生した〕。

そして、日銀は、国債の引き受けや金融緩和策を通じて経済活動を支えることになる。特に、日中戦争からアジア太平洋戦争にかけての戦時体制期の日銀総裁をつとめたのが、結城豊太郎であった。結城は日銀総裁の前、(9)〔㉠ 第1次近衛文相内閣 ㉡ 林銑十郎内閣 ㉢ 平沼騏一郎内閣 ㉣ 広田弘毅内閣 ㉤ 宇垣一成内閣〕で蔵相をつとめた人物であり、その際、軍部と財界との調整をはかる結城財政は「軍財抱合」と呼ばれた。

アジア太平洋戦争の敗戦後、猛烈なインフレと資金不足という困難な状況下、日銀総裁として金融政策を担当したのが、^{いちまだひさと}一万田尚登である。一万田は金融政策上における絶大な権力から、「法王」の異名をとった。一万田はのち鳩山一郎内閣の蔵相に就任するとともに、1955年の総選挙で、鳩山が総裁をつとめる(10)〔㉠ 国民協同党 ㉡ 自由党 ㉢ 国民民主党 ㉣ 日本進歩党 ㉤ 日本民主党〕から立候補、代議士に当選した。

Ⅳ 次の文章を読み、下記の(1)～(10)の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

間違いは、どこでも起こってしまうもの。

ただ、「事業の終盤に発見されたミス」となると、現代でもちょっと痛い。

内裏造営の作業が進み、知識のある者たちのチェック⁽¹⁾も受けて、いよいよ天皇が実際に使用する日も間近になった頃のこと。現在で言う建物の内見をしていた「玄輝門院」⁽²⁾から「昔、閑院内裏⁽³⁾にあった小窓と形が違う」と指摘されてしまう。そこで、現場は慌てて修正作業をしたそうである。兼好法師はこのエピソードについて短く、シンプルに書いているだけだが、当時の玄輝門院は七十歳を超えており、閑院内裏が炎上した1259年からは六十年近くが経っていた。専門家たちも見落としたわずかな部分をかつての記憶から訂正した玄輝門院の逸話である。

今度は、「(4) 殿」を建てる時の話。地ならしをしていると、或る場所に大きな蛇が大量に集まっていたという。工事をする人々は神の使いや神霊かもしれないと恐れ、報告を受けた公家たちも昔から住んでいる生きものを雑に扱うべきではない、などと尻込みする。ところが、或る「大臣」⁽⁵⁾だけが「御所を建てようとするのに祟りがあるはずはない。鬼神も正しいおこないを責めたりはしない」と主張して、工事は続行。結局、何の祟りもなかったという。その判断が「間違い」か、そうでなかったかは結果次第なのだろう。

「鎌倉中書王」⁽⁶⁾が蹴鞠をしていたのは、雨上がりの時分だった。庭の乾いていないところはぬかるんでしまう。すると「佐々木隠岐入道」という人物が粉状の木屑をたくさん車に載せて来て地面を整備する。普段から木屑を捨てずにとっておいたらしい。それで周囲の人は皆感心した、という。ここで終わりなら機転を利かせた話なのだが、その後、「吉田中納言」による「砂の準備はなかったのかなあ」というコメントに繋がる。佐々木入道のファインプレーかと思ったのは、実はまさかの「間違い」だった。木屑など使うべきではなく、そもそも蹴鞠をするなら整備用の砂くらい事前に用意しておくものらしい。何が「間違い」かは、見方の問題ということである。あるいは、初めて京から将軍として迎えた皇子の芸事に、武家がしかるべき形で付き合うのは難しいということだろうか。

ある時、「梅尾の上人」が歩いていると、「あし、あし」と言いながら河で馬を洗っている男を見かけた。立ち止まった上人が「それはどなたの馬か？」と尋ねると、男は「府生殿の馬でございます」と返す。すると、上人は涙を流すほど感動した、というオチになるのだが、一体、何なのか？ まず男は「足」と言っていたけだが、それが上人には仏教用語の「阿字（あじ）」に聞こえてしまう。そして、次の男の答えにあったが「府生（ふしょう）」という言葉だった。音だけで「あじ」と「ふしょう」を合わせると、特に密教で真理を表す重要概念である「阿字本不生（あじほんぷしょう）」の出来上がり。「道で大変ありがたい言葉に出会った」と上人は涙してしまったわけである。単なる「聞き間違い」どころか、ほぼ空耳なのだが、高山寺を再興した真面目な上人にとっては、何気ない言葉も感動するほどありがたいものに変換されてしまうのかもしれない。

何かの間違いや勘違いか、それとも本気なのか。そう判然としないのが、「資朝卿」⁽⁸⁾という人物。武士たちに囲まれ連行される老公家の姿を見て、「なんと羨ましい、こうありがたいものだ」と言っただけらしい。この段もシンプルなつくりでこれ以上の説明はなく、その心情は推し量るしかない。「資朝卿」は他の段にも登場しており、やはり同じように天真とも意図があるとも定かでないような行動をしている。

兼好法師は、『（9）』の作者を「信濃前司行長」とであると記した。有名古典の作者論に眼がいてしまいがちになる段である。学問優秀と知られていた行長はある時、天皇の前で「七徳の舞」の内の二つをド忘れするという大ミスを犯し、二つ足りない「五徳の冠者」と呼ばれるようになってしまう。その行長が後年に『（9）』を作るとされるのだが、「九郎判官（源義経）」については詳しく知って書いている一方で、「蒲冠者（源範頼）」のことはあまり知らないのか、書き漏らしが多い、と評されている。つまり、行長に対して内容の片寄りを批判しつつ、「七徳」が「五徳」になってしまうような「間違い」をしやすいのか、あるいは「冠者」という呼び名が嫌いだったのか、などのような皮肉が込められているのである。

このように、文章の随所で「間違い」に対して様々な視線を送っている兼好法師だが、その本人も『建礼門院右京大夫集』から引いている言葉について、元は「けしき」とあるところを「しき」と記している箇所がある。その段の文脈上は「しき

(式)」の方で読むべきなのだが、こうした作者本人の作業に関わる部分⁽¹⁰⁾は、単なる「記憶違い」や「間違い」なのか、あるいは意図的な「改変」なのか。その「間違い」にどんな意味を読み取るべきだろうか。

〔設問〕

- (1) 下線部 (1) に関して、公家や武家の儀礼や様式を研究する学問を漢字 4 文字で答えなさい。
- (2) 下線部 (2) に関して、この人物を后とした後深草天皇は持明院統の発端となったが、この皇統が継承した荘園群の名称を答えなさい。
- (3) 下線部 (3) の「閑院」は藤原北家の支流の名称ともなるが、元々は藤原冬嗣の邸宅であった。藤原冬嗣らが810年に初めて任じられ、天皇の側近として文書や訴訟などを扱う令外官の長官名を漢字 3 文字で答えなさい。
- (4) 「(4) 殿」の場所は現在の天龍寺にあたる。元は後嵯峨天皇が離宮とし、離宮の名称は大覚寺統の発端にあたる天皇の号の由来となった。
(4) に入る漢字 2 文字を答えなさい。
- (5) 下線部 (5) に関して、この「大臣」は、徳大寺実基という人物であるが、藤原北家閑院流の徳大寺家として初めて、律令官制の最高官職に任命された。常任ではなく、「則闕の官」とされたその官職名を漢字 4 文字で答えなさい。
- (6) 下線部 (6) に関して、この人物は、鎌倉幕府第 6 代将軍で、中務卿にも任命されていたため、「中書王」と呼ばれている。この人物名を答えなさい。
- (7) 下線部 (7) に関して、法然を厳しく批判したことで知られる、この仏教者の人物名を答えなさい。
- (8) 下線部 (8) に関して、日野資朝は後醍醐天皇の側近で、1324年には討幕計画に関わったとされ、その翌年に佐渡へ流罪となった。この時の年号に由来する事件の名称を答えなさい。
- (9) (9) に入る書名を答えなさい。
- (10) 下線部 (10) に関して、この文章全体は、243段からなる随筆集を題材になっている。14世紀前半に成立したとみられる、この書名を答えなさい。

V 近現代日本における憲法と政治に関連する次の文章を読み、下記の(1)～(10)の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

ドイツ人顧問の(1)やモッセらの助言を得て、伊藤博文らが起草に当たった憲法には次の一節がある。

「第四条 天皇ハ国ノ(2)ニシテ(3)権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ。」

このような憲法の下であっても、政党内閣制が成立したのは、憲法理論をめぐって、美濃部達吉の(4)説がいわば正統学説になったからだった。しかしこの学説は、1935年に岡田啓介内閣が(5)声明を出したことによって、否定された。この後も敗戦に至るまで、政党内閣制が復活することはなかった。

敗戦の翌年11月3日、日本国憲法が公布される。その第9条第2項は次のようになっている。

「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の(6)は、これを保持しない。国の(7)権は、これを認めない。」

1955年になると、保守合同によって、このような憲法の改正をめざす自由民主党が結成される。1957年には自由民主党の第1次(8)内閣が成立する。その後、今日に至るまで、日本国憲法は改正されていないものの、(9)後のペルシャ湾への海上自衛隊・掃海部隊の派遣の違憲性をめぐって、論争が起きた。さらに1992年になると、宮沢喜一内閣のもとで、自衛隊の海外派遣を可能にする(10)が成立した。この法律に基づいて、1993年にはモザンビークへ自衛隊が派遣されている。

こうして今でも日本国憲法のもとでの日本の国際貢献のあり方が問われている。

〔設問〕

- (1) (1) にあてはまる人物名をカタカナで記しなさい。
- (2) (2) にあてはまる語句を記しなさい。
- (3) (3) にあてはまる語句を記しなさい。
- (4) (4) にあてはまる語句を記しなさい。
- (5) (5) にあてはまる語句を記しなさい。
- (6) (6) にあてはまる語句を記しなさい。
- (7) (7) にあてはまる語句を記しなさい。
- (8) (8) にあてはまる内閣総理大臣の人物名を記しなさい。
- (9) (9) にあてはまる1991年に勃発した軍事紛争の名称を記しなさい。
- (10) (10) にあてはまる法律の名称を記しなさい。